

私たちの仕事は、特別な日を創ることです

CERESPO

NEWS

vol. 104 June 2018

40th
and more

セレスポ

セレスポ・ニュース
平成30年6月発行
第104号

ラ・フォル・ジュルネTOKYO

池袋の街が 音楽に熱狂する日

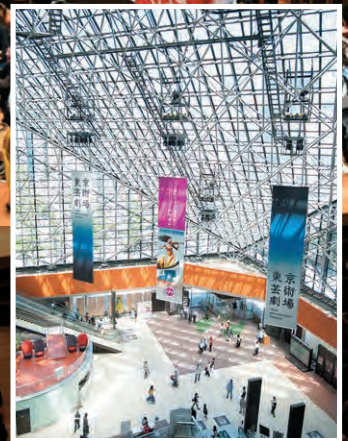


セレスポ
Pick Up

「第2回 パラスポーツを知って!
応援しよう!」を開催。

みなさんに 夢中 な ってほしい

5月3～5日、「ラ・フォル・ジュルネTOKYO」が池袋など、東京都内で開催されました。「モンド・ヌーヴォー 新しい世界へ」と題したイベントでは、偉大な作曲家たちが好奇心に突き動かされて開いた「新しい世界」を体感してもらおうと、街が丸ごと音楽で包まれていました。今回は、同イベントの企画、運営を担当した株式会社KAJIMOTOの滝田織江さんにお話をうかがいました。



ラ・フォル・ジュルネは今回で何度目の開催となるのですか？

滝田さん：2005年に初めて開催し、今年で14回目でした。今回はエリアを拡大し、池袋エリアを含めて2エリアで開催いたしました。会場が2エリアに分かれることなど、運営面でも初めてのこともありましたが、スタッフ一同「ラ・フォル・ジュルネを楽しんで欲しい！」と精一杯考え抜きました。

本イベントで意識したことは何ですか？

滝田さん：「Folle」であることです。「ラ・

フォル・ジュルネ」は劇作家のカロン・ド・ボーマルシェの「フィガロの結婚」の正式名称からとっています。Folleとは「夢中になる」「熱狂」、journéeとは「日」という意味。「赤ちゃんからクラシック通まで」というテーマもあり、小さなお子さま連れのファミリー、クラシック好きのご年配など近隣地域のあらゆる層のかたが「熱狂する一日」になって欲しいと考えていました。音楽祭はコンサートに来るという感覚ではなく「お祭りに来る」という感覚で楽しめます。街がさらに生き生きするきっかけになればとも考えていました。

イベントを終えて、今のお気持ちはいかがですか？

滝田さん：多くのお客さまに楽しんでいただけ良かったです。大きな事故もなく無事に終えることができました。当日券売り場でお客さまをお待たせしてしまったことや、飲食エリアで座席数が少なかったこと、エリアによって興味を持っていただける取り組み、公演内容が異なっている

ことなど、課題も見えましたので次回に向けて改善していきます。

今回のイベントで印象に残ったことはなんですか？

滝田さん：街で丸ごと音楽祭をやるような大規模なイベントです。池袋エリアでは芸術劇場周辺や南池袋公園、サンシャインシティ、近隣の百貨店などでも行いました。関わっている企業さまやスタッフも多いので、音楽祭のコンセプトや大切にしたい信念を、全員で共有し、コミュニケーションをとることが大事だと感じました。次回もマニュアルに沿ってやるだけではなく、意識、感覚的な部分から「一緒に盛り上げよう！」と思えるように考えることを大事にしたいです。

次回への意気込みをうかがえますか？

滝田さん：「子どもと一緒にコンサートを聴けて良かったです」「一流アーティストの演奏が朝から晩まで身近で楽しめて良かった」「毎年、GWに家族で参加して



株式会社KAJIMOTO ラ・フォル・ジュルネ室
スタッフ一同



目白

大塚

池袋

EventData

- ラ・フォル・ジュルネ TOKYO 2018
- 2018年5月3～5日
- 池袋(ほか1エリア)
- 主催:ラ・フォル・ジュルネ TOKYO 2018 運営委員会 (株式会社KAJIMOTO/株式会社東京国際フォーラム/豊島区/三菱地所株式会社)

インタビュー所感

池袋を歩いていてびっくりしたのが、いたるところから音楽が聞こえてくること。デパートで買い物から休憩していても聞こえてくる。サンシャインに向かっていてもどこからか聞こえてくる。BGMと違うのは、一緒に拍手や歓声も聞こえてきたところ。池袋の街を歩いているだけで、「何かあっちが楽しそう」とワクワクしてきました。

いるイベントなので楽しみにしています」など、来場いただいたお客さまからお声をいただきました。お客さまが「熱狂する日」になるよう、私たち運営も「常識を覆す」「新しいクラシック音楽鑑賞のありかた」に熱狂して、挑戦していきます！



REPORT 株式会社セレスポ 東京支店 倉林 亜衣(くらばやし あい)

ひとつひとつを学んで次に生かしていきたい

本イベントでは設営から運営全般を担当させていただきました。「Folle(夢中になる)」が本イベントのテーマでしたが、「経験的にいままではこうだったから」「マニュアルにはこうあるから」と考えず、「どうしたらお客さまが夢中になってくれるだろう」と考えながら準備を進めていきました。

入社して初めての研修で「同期の十箇条」を決めました。この中の「わからないことをわからないままにしない」ということを意識しました。本イベントは14年目ですので、「わからない」をなくそうとこれまでの資料やお

客さまからいただいたメールを読み込みました。「わからない」がなくなると、余裕を持って対応できることが体感できました。

GWは旅行やちょっと遠くにお出かけする方も多いと思います。その中で「ラ・フォル・ジュルネ TOKYO」を選んでいただいたことが嬉しい。子どもからお年寄りまで、池袋の街を楽しんでくれたのが実感できました。また、イベント終了後にお客さまから「ありがとう」と声をかけていただき、イベント終了後にスタッフみんなで「お疲れさま!」と言いつつ合ったときは、みんなで「Folle」できたと感じ



じられて、思い出に残っています。今回のイベントで「一緒に夢中になること」や「わかりやすく伝えること」の大切さを学びました。少しでも多くのお客さまから「助かったよ」と言ってもらえるよう、これからもいろいろ学んでいきたいです。

セレスポ
Pick Up

「第2回 パラスポーツを知って! 応援しよう!」開催。

2018年6月14日に、豊島区との共催で「第2回 パラスポーツを知って! 応援しよう!」を開催しました。セレスポはプログラム提供者として参画し、大人から子どもまで多くのかたに楽しんでいただくことができました。

第1部では、パラアスリート上原大祐選手をお招きしてトークショーを開催。自身の日常や試合での体験を交えながら、パラアイスホッケーの魅力やこれからのパラスポーツについての展望についてお伝えしました。第2部では、車いすの乗車体験や、ボッチャやシッティングバレーなどのパラスポーツの体験会を実施。初めての競技も、ルールを確認しながら実際にやってみることでその面白さや奥深さに気づかされたとの声をたくさんいただきました。

ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。



競技レーサー



パラスポーツを見ることもすることも、支えることに繋がります。2020年のビッグイベントをゴールにするのではなく、スタートとして次につなげていきたい。みんなで一緒にスタートをきれるように、これからもパラスポーツの魅力を発信していきたいです。(上原大祐選手)



シッティングバレー



ボッチャ

発行 発行日：平成30年6月25日

発行元 株式会社セレスポ (CERESPO CO.,LTD.)
〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-21-5 (本社)
TEL : 03(5974)1111 FAX : 03(5394)7651
<http://www.cerespo.co.jp/>

編集 山川 謙 (yawn)
記事 コーポレートデザイン室
デザイン 山本制作所
CERESPO NEWSに関するお問い合わせは
株式会社セレスポ コーポレートデザイン室(cd@cerespo.co.jp)まで

編集後記

「パラスポーツは、みんなができるスポーツです」。トークショーで上原大祐選手の言葉を聞いた時にハッとさせられました。確かに、車いすに乗っている人がバレーボールをすることは難しいけれど、シッティングバレーボールなら参加できる。このように特別な道具がなくても、少しだけ工夫することで障がい者と健常者の垣根は取り除くことができるし、みんなで楽しむことができる。これこそがパラスポーツなのだとは上原選手は続けました。

パラスポーツは、自分で体験することでがらりと印象が変わり、その魅力に気づかされるのがとても多いです。「する」「見る」「支える」それぞれの楽しみかたを発見するきっかけになればと思います。